

平成30年度 南アルプス市立若草小学校 第2回自己評価書

若草小学校
校長 澤登 一浩

本年度の学校教育目標

- かしこい子ども
- 美しいものに感動する子ども
- 思いやりのあるやさしい子ども
- たくましく生きぬく子ども

本年度の学校経営基本方針

- (1) 「生きる力」を育むために調和のとれた教育課程の編成と円滑な実施に努める。
- (2) 確かな学力を育むための指導と評価に努める。
- (3) 豊かな心を持った人間味あふれる子どもの育成に努める。
- (4) たくましく生きるための健康と体力の向上に努める。
- (5) 家庭や地域社会との連携のもとで、安心・安全で信頼される学校づくりに努める。
- (6) 教職員が相互に協調・信頼し合い、創意と活気に満ちた学校づくりに努める。

1 評価方法

児童，保護者，教職員の3者に対して，アンケート用紙により回答を得た。
質問に対しての回答選択肢は4段階になっている。

- A：そう思う
- B：ほぼそう思う
- C：あまりそう思わない
- D：そう思わない

の4段階で，このうちAとBは肯定的なプラス評価であり，CとDは否定的なマイナス評価である。
AとBのどちらを選ぶか，CとDのどちらを選ぶかについては，回答者の判断材料の有無・回答時点の状況等が関係するため，A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも，A・B合わせてのプラス傾向，C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が，全体的な傾向をつかみやすくなる。
そこで，各項目の回答に占める「A・B」の割合，「C・D」の割合を求め，

- 「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）
- 「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価）

と判断をした。

2 全体評価

I 学校生活について（後期）考察

◆「学校は楽しいですか」について

「学校が楽しい」と肯定的に感じている割合は、児童・保護者とも9割を超え高い。肯定的な回答の中で「Bほぼそう思う」の割合が保護者の方が高く、児童とは若干の相違がみられる。否定的な回答をした児童は6.0%（←前期5.4%）である。行事の検討、学級づくり、個々に目をむけた支援等児童が楽しく学校生活を送れるよう改善を図ってきた。

◆「クラスは目標に向かってがんばっている」について

一人一人が学級への所属意識をもち存在感を味わうことは、学校生活を送る上で大切である。アンケートにおいて、肯定的意見は児童98.2%（←前期97.0%）保護者96.2%（←前期96.8%）と「クラスは目標に向かってがんばっている。」と感じている割合は高く、児童は若干向上した。

◆「困った時に誰かに相談できる」について

「困った時に相談できる」と肯定的に回答した児童の割合は89.8%（←前期89.2%）、保護者の割合は91.9%（←前期93.0%）となった。ただ否定的な回答をした児童の割合は10.2%と他の評価項目と比べ多くなっている。不登校やいじめが社会問題になっている昨今、否定的な回答した児童に目をむけながら、相談しやすい体制を構築し、児童が孤立しないような指導を心がけていく。

◆「あいさつ」について

児童会やPTAの活動を中心に、学校全体であいさつ運動に取り組んできた。昨年度、結成した「地域見守り隊」も定着し、地域に浸透してきている。児童の肯定的な回答は95.0%（←前期89.8%）、保護者の肯定的な回答は86.1%（←前期88.8%）であいさつに対する意識の割合は高く、特に児童は5%以上の改善があった。学校、家庭、地域で連携しあいさつの輪が広がるよう、今後もあいさつ運動の取り組みを工夫し、充実させる必要がある。

◆「係や当番の仕事・そうじ」について

係活動や清掃活動はとても進んでよくやっている。（児童肯定97.8%←前期97.0%）これからも校内美化や環境整備に努め、勤労をする心や愛校心を育てる教育活動を大切にしていく。

II 学習指導について（後期）考察

◆「学校の授業がわかる」について

「学校の授業がわかる」ことは、学校生活を楽しく送る上で最も大切なことである。児童・保護者ともに肯定的な回答が9割程あり（児童肯定95.0%←94.0%前期、保護者肯定89.1%←90.2%前期）、前期の結果と比べても大きな変化はなかった。保護者において「Aそう思う」に着目すると、基礎的学力の定着が32.6%←36.2%前期、授業への集中44.3%←51.5%前期、発言する機会50.4%←55.2%前期

であり、いずれも若干の減少傾向がみられる。保護者の評価は、基礎学力の定着に課題を感じていることがよみとれる。今後も保護者への理解と協力を得る中で、基礎学力の向上を踏まえた授業改善に取り組み、また否定的な回答をした5.0%（←6.0%前期）の児童に対し、授業を楽しく感じられるように、基礎基本を大切に、わかる授業を展開していく。

◆「先生や友だちの話をしっかり聞く」について

「聞く態度の育成」は全職員で、校内研究会等の中軸に据え進めている。児童の肯定的な回答が多く96.8%（←前期97.6%）であった。保護者も94.6%（←前期95.8%）と肯定的な意見が多い。食育推進校として、公開研究会や研究授業に取り組んできた。授業改善の一つの柱として、「聞く態度の育成」を今まで以上に進めていく。

◆「授業中の発言」について

「発言をすること」は、保護者の肯定的な回答が94.6%（←97.0%前期）があった。しかし児童においては肯定的な回答が79.0%（←79.0%前期）と少なくなる。前期と後期で大きな変化はなかった。高学年になるにつれ「Aそう思う」の割合が減る傾向にある。課題克服のため校内研究と連携し「聞く態度の育成」を含め、「自分の考えをもち、伝え合う学習」を推進していく。

◆「宿題や自主学習」について

家庭学習は、児童・保護者とも9割以上の肯定的な回答があった。児童の回答は92.8%（←前期92.6%←H29後期90.8%←H29前期84.8%）と少しずつ改善している。保護者の協力は90.3%（←前期90.2%）と前期より大きな変化はない。他の学習に関する評価項目と比べると「Bほぼそう思う」の割合が高い。今年度は、家庭学習強化週間を設け、保護者に呼びかけ連携を進めながら取組を行った。まだまだ自主的な家庭学習については改善の余地がある。基礎学力の定着には、家庭との協力が重要である。今後も校内体制も整え、取組を工夫していく。

Ⅲ 生徒指導について（後期）考察

◆「きまりや約束を守る」について

学校の約束や決まりを守ることは学校生活を安全・安心に過ごす上でとても重要である。児童・保護者とも97.2%肯定的な回答（児童前期96.4%、保護者前期97.8%）をし、満足できると結果であった。否定的な回答をした児童は2.8%（←3.6%前期）いて、若干減少している。今後も一人一人の児童にしっかりと目を向け、丁寧な指導を心がける。

◆「友だちのいやがること、言ったりやったりしない」について

「友だちのいやがることを言ったり、やったりしない」について、児童では「していない」という肯定的な割合が90.2%（←前期92.0%）とほぼ9割である。保護者でも「いじめへの対応」に肯定的な回答が92.7%（←前期94.2%）と9割を超える。しかし「Dそうは思わない」と回答する児童2.6%（←前期3.2%←H29後期5.1%）や約1%の保護者もいる。個々に状況を把握し、丁寧に対応してい

く必要がある。いじめや諸問題行動への対応の基本は未然防止，早期発見・早期対応である。年2回のQ U検査等も活かしながら，「友だちのいやがることを，言ったりやったりしない」ことを大切に居心地がよいといえる学級づくりを推進していく。

IV 学校経営について（後期）考察

◆「学校行事」について（保護者）

「学校行事は，子どもたちが楽しく参加できるように実施されていますか」の項目について，肯定的な回答が96.8%（←前期98.6%）であった。新学習指導要領への移行期を迎え，授業数確保の為，運動会や音楽会等の取組を縮減，工夫して実施したが，保護者の満足度は良好であった。児童は行事から多くのものを学び，また充実した学校生活を送る上でも学校行事の果たす役割は大きい。今後とも伝統を大切に，教職員の多忙化解消も考えながら，児童・保護者が満足を得られるよう学校行事を考えていく。

V 研究について（後期）考察

◆「校内研究会」について（教職員）

本年度は食育推進校として，食育について年間を通し継続的に研究した。2学期までに食育に関する講演会，食育を扱った道徳公開，プレ授業の3年生の研究授業があった。食育のアンケートにも示されたが児童・保護者の食に関する認識も高まってきている。1月には公開研究会を行う計画である。

校内研究会については100%（←前期100%）の教職員が主体的に校内研究会に参加し，授業力の向上に努めていると回答している。児童の「Ⅱ学習について」の項目で，授業が分からない5.0%（←前期6.0%），聞く態度に課題3.2%（←前期2.4%），発言に課題21.0%（←前期21.0%）の児童へ，これからもきめ細かな指導を継続的に行っていく。さらに今年度は新学習指導要領の移行期にあたり，5・6年に週2時間，3・4年に週1時間の外国語，外国語・外国語活動が入り，また特別な教科道徳が始まり，授業数が増えた。そこへの備えや対応も来年度検討する必要がある。

◆「特別支援教育」について（教職員）

特別支援教育に対する校内支援体制は，肯定的な回答が100%で，その内訳をみると「Aと思う」が69.4%（←前期20.0%），「Bほぼと思う」が30.6%（←前期80.0%）と大幅に改善した。本校には特別支援学級が5学級あり，普通学級の中にも支援を必要とする児童が多数在籍している。特別支援校内委員会やケース会議の定期的な実施や，個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成等，全教職員が共通理解した上で支援・指導を行った成果が出てきている。また，ユニバーサルデザインを通じた授業づくり等の研修も行った。

VI 施設・設備・安全管理について（後期）考察

◆「安心・安全な教育環境」について

学校は、子どもにとって安心して安全な場所でなければならない。定期的に安全点検を実施し、子どもたちの過ごしやすい環境整備に努めてきた。保護者からは肯定的評価が98.4%（←前期96.6%）と高い評価を得ている。教職員も肯定的評価が100%であるが、内訳をみると「Aそう思う」が57.1%（←前期18.2%）、「Bほぼそう思う」が42.9%（←前期81.8%）であり、大きな改善がみられるが、施設の老朽化と安全点検等大変さはいなめない。設備修理等をこまめに行い、児童の安全確保と事故防止にこれからも努力していく。

◆「施設・設備」「教育備品」について

学校施設について肯定的な回答をした保護者は94.8%（←前期93.0%）である。（Aそう思う41.1%←前期43.2%、Bほぼ53.6%←前期49.8%）しかし、学校を使っている教職員は否定的な回答が多く、91.9%（←前期81.1%）であった。また消耗品など教育備品についても肯定的な回答が48.6%（←前期43.2%）と低い。夏休み中にトイレそうじ、窓ガラスそうじ、床そうじが入り、保健室にシャワー室がついた。また防犯カメラの設置も行った。大規模改修も見据え、長期的にお願いしていくもの、早期に依頼するものを見極め、要望を出していく。なお消耗品についても、大切に節約して使うことを心がけ、必要なものには予算を要求していく。

◆「登下校時の安全確保・避難訓練等」

子どもたちの安全確保や事故防止について、日々の指導の充実を図り、様々な場面を想定して訓練を実施している。また全国的な事件を受け、ブロック塀の確認や児童が一人で下校する箇所等の確認を行った。教職員の肯定的評価は「Aそう思う」48.6%（←前期38.9%）、「Bほぼ」51.4%（←前期61.1%）となり、改善している。保護者も学校への肯定的評価は98.4%（←前期96.6%）と満足できる結果となっている。ただ、保護者の協力に目を向けると肯定的意見の「Aそう思う」33.6%（←前期36.4%）とやや低い。見守り隊の活動を広げながら、今後も保護者や地域と一体となり、児童の安全確保や事故防止へのご協力をお願いしながら、安全教育を推進する。

VII 保護者・地域住民との連携について（後期）考察

◆「情報発信（よく目を通してしているか）」について

お便りをよく読むかについての肯定的な回答は95.2%（←前期96.6%）ある。食育のアンケートにも、情報を学校から得ることが多いという結果もある。今後も、学校と保護者とのよりよい関係が築けるよう、さらに協力し連携をとり、適切な情報を発信していきたい。

◆「授業参観 学校行事への参加」について

本校では月に1度、授業参観や学校行事などで保護者が学校や児童の様子を参観できる日を設けている。授業参観や学校行事のモチ方については、肯定的評価が98.0%（←前期98.2%）の回答を得ている。本年度は運動会や音楽会、学校行事等を見直ししながら、実施したが、肯定的評価の大きな変化

はみられなかった。保護者や地域の声を活かしながら行事の工夫していく必要もある。

◆「保護者からの相談や要望に適切に対応」について

保護者からの相談や要望に適切に対応については肯定的な回答が95.4%（←前期96.6%）であり、教職員が丁寧に対応をした結果である。しかし3.2%（←前期2.4%）の保護者が否定的な回答をしている。保護者との関係を密にとり、これからも丁寧な説明と素早い対応に心がけ、信頼される学校づくりに努めていく。

◆「安全確保・見守り活動への関わり」について

見守りたすきを導入し、見守り隊を、中学校や地域に広げることができた。意に賛同してくれる団体も出てきていて、この1年間でさらに浸透した。児童の登下校時間に、地域でたすきをかけている人を見かけることも多くなってきている。保護者の肯定的な回答は85.5%（←前期86.2%）であるが「Aそうおもう」が33.6%（←前期36.4%）、「Bほぼ」が51.9%（←前期49.8%）と保護者の働きかけについて、改善できる余地がある。保護者を巻き込んで方法を来年度以降も検討していく。

3 まとめ（第1回学校評価を通して決めた指導重点とその取り組みの成果）

アンケート調査の結果を見ると、児童・保護者・教職員あわせ、学校施設等の一部例外があるものの、多くの項目で肯定的評価が否定的評価を上回っている。今後も改善・推進を図りながら、日常行われている教育活動を継続していくことが大切である。

【学校生活について】

- 運動会や音楽会などの取組を工夫し、一人一人が生き生きと活躍できる場を作ることができた。保護者の満足度も得ることができている。児童の「クラスは目標に向かってがんばっている」や「あいさつ」に関わる評価はよくなっている。児童会で取り組んだ「あいさつミッション」やQ Uを活かした学級づくり成果がでてきている。
- 児童・保護者とも約9割がいじめへの対応に肯定的な回答をしている。本年度は週に1度のスクールカウンセラー、教育事務所のスクールソーシャルワーカーと関わり、困難さを抱えていた児童に丁寧寄り添ってきた。未然防止に今後とも取り組みたい。

【学習について】

- 中巨摩の食育推進校の指定を受け、食育と教科の関連、食生活の改善に取り組んだ。1学期：食育講演会（小中連携事業）、2学期：食育を扱った道徳公開、3学期：食育の公開研究会を行った。また新学習指導要領の施行に向けて、「思考力・判断力・表現力」を高める授業づくりを合わせて行った。講師も招聘しながら、充実した研究を行うことができた。
- 教師や友だちの話を「聴く」ことを大切にし、授業中の「発言」を増やす工夫を行った。児童・保

護者とも大きな変化はないが、今後とも校内研究と合わせ、学級・学年・ブロックで連携した系統的な取組を進めていく必要がある。また夏休みには講師を招聘してユニバーサルデザインの授業づくりの研修を行った。今後ユニバーサルデザインの考え方を授業の中に順次取り入れていく。

ユニバーサルデザイン：障害の有無，年齢，性別，人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。困難を抱えた児童生徒を含む学級の全員が一緒に参加し，理解を深めることができる授業づくりが今望まれている。

○県から出ている家庭学習のパンフレット（学びの甲斐善8ヶ条）等利用し，家庭学習強化週間を有効に活用しながら，子どもたちの学習習慣の定着につなげることができた。（宿題等はできている）ただ自主的な学習の習慣化についてまだまだである。家庭の考え方や状況等と折り合いをつけながら，家庭学習推進期間の設定回数や内容を工夫し，今後も家庭学習を保護者の理解と協力のもとに連携していく。

【生徒指導について】

- 普段から学級の子どもの様子に気を配り，Q U検査を活用するなど，いじめの早期発見，早期解決の取組を行い，何か問題があった場合には多くの教師が関わりチームとして指導にあたった。全校職員一丸となった指導，協力体制のもと，いじめにつながる小さな気持ちの荒れを収めていくことができた。また学級づくりを大切に，「学び合い」の授業づくりとともに，あたたかい人間関係の構築に努めた成果も出てきている。
- 防犯やあいさつを目的とした「わかくさ見守り隊」を自治会に協力を要請し，P T A活動でも取り組んだ。協力してくれる団体も増え，広まりや浸透みられた。児童会・P T A・地域の方々とも協力し合いながら，あいさつ運動・見守り活動を工夫し今後も推進していく。

【施設・設備について】

○校舎が48年経ち，老朽化も進んでいる。床，窓，トイレ，プール等夏休みまでにクリーニングを終えた。また保健室にはシャワー室ができた。冬休み中には監視カメラが入る。まだまだ修繕の必要な個所多い。長期的に対応を考えるもの，緊急性があるもの等，予算と相談しながら（要求しながら）これからも，児童が安全・安心して学校生活を送れる施設・設備を整えていく。